

# 経営理念とCSRマネジメント

当社は、事業内外において社会的責任に則った活動を推進し、社会および当社の持続可能な発展を追求することを目的に、経営理念の具現化および行動指針の実践に努めています。

## グループ経営理念と行動指針

2002年6月に制定した太平洋セメントグループの経営理念は、当社が加盟するWBCSDの共通理念「持続可能な発展」の実現を目指して、経済、環境、社会のトリプルボトムラインを経営の機軸に据えることを宣言しています。2002年12月には、グループ経営理念を実現するために9項目からなる太平洋セメントの行動指針を定めました。

### グループ経営理念

太平洋セメントグループは、持続可能な地球の未来を拓く先導役をめざし、経済の発展のみならず、環境への配慮、社会への貢献とも調和した事業活動を行います。

### 行動指針 | 会社としての行動のあり方

- 太平洋セメントグループとして総合力を発揮し、企業価値の最大化を目指します。
- 地球環境との調和に努め、循環型社会の実現に向け積極的に貢献します。
- 法令等を遵守するとともに、社会の良識に則って行動します。
- 広く社会とのコミュニケーションを行います。
- 技術の更なる研究・開発に努め、優れた製品・サービスを社会に提供します。
- 国際的な企業として、グローバルな視野で発想し行動します。
- 事業環境の変化に即応し、柔軟に行動します。
- 一人ひとりが社内外に通用する人材となることを目指します。
- 人権を尊重し、安全で健康な職場づくりに努めます。

## CSR 長期ビジョン

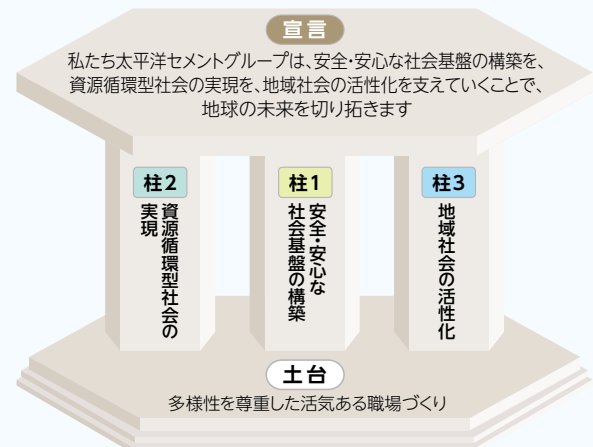
2007年8月、当社はCSRの視点で10年後のあるべき姿を描いた「CSR長期ビジョン」を策定し、まず、2010年度までに取り組む具体的な施策として13分規23施策をまとめました。

しかし、調査の段階で実現の困難さが判明したものや

事業構造改革に伴う経費削減もあり計画した施策の多くを実施見送りあるいは規模を縮小しました。そのような状況の中、従業員自らの意識変革を促す活動としては、「コンプライアンス上の問題事例を教材化しての研修」、地域活性化支援の活動としては「鉱業所跡地での花粉の少ない森づくり」や「鉱業所近隣地域の環境保護支援」など一定の成果を上げることができました。また、海外拠点での地域支援活動として、フィリピンセブ工場のあるフェルナンド町の子弟に継続して大学奨学金の給付を行なっています。

2011年度以降は、新たに計画を策定し施策を展開していきます。

### CSR長期ビジョン



重要領域	施策区分	実績	
柱1	社会基盤構築に資する当社技術を活かした社会貢献事業の展開施策(調査)	コンクリート構造物の耐久性向上支援事業 途上国の貧困層への住宅・学校等建設支援事業	△ —
	柱2	環境貢献活動のうち、ビジネスベースでは進まない自主的な環境保全施策	法規制を超えた自主的な環境負荷低減 クローズドリサイクル(拡大生産者責任) 環境技術の海外への移転・普及
柱3		地域とのコミュニケーションを深め、地域の活性化を支援する施策	地域とのコミュニケーションの進化
	地域活性化を支援する活動 海外拠点と関連した支援活動		○ △
土台	従業員自らの意識変革を促す施策	太平洋セメントグループの一員としての一体感醸成	△
		誇りをもって誠実に仕事に取り組む認識の共有 多様性を尊重する社風づくりの第一歩	○ △
	従業員が取り組みやすい環境を整備する施策	ワーク・ライフ・バランスを考えた快適職場 ボランティア活動への参加機会の提供	△ △

○: 実施できたもの △: 規模を縮小して実施したもの —: 調査の段階で実施困難となったもの